

医療協力

在ザンビア日本国大使館

(1) ザンビアの地方で、無給で働く産婦人科医

三好康広医師は、2006年長崎大学医学部在学中、アフリカ大陸を4ヶ月かけて旅をした際、アフリカの貧困を目の当たりにし、将来アフリカに医師として戻ってくることを決意しました。2009年3月に大学を卒業し、同年から2010年まで研修医として勤務した後、2013年～2016年まで長崎医療センターの産婦人科に勤務しました。2016年5月にザンビアの医師免許を取得し、同年6月から、ルサカのザンビア大学付属教育病院 (University Teaching Hospital) で研修を受け、同年7月から約2年間、南部州ジンバ (ルサカから車で約6時間の人口約1万3千人の町) のジンバミッション病院 (Zimba Mission Hospital) で無給ボランティアとして勤務しました。

ジンバミッション病院は、周辺地域を含め33万人の医療圏を持つ近隣地域の唯一の医療施設で、医師3人、准医師1人の体制です。ザンビアの地域病院で求められるのは産科、外傷、感染症です (ザンビアは10万人あたりの妊産婦死亡率が224人 (日本は5人)、1千人あたり乳幼児死亡率が43人 (日本は2人))。三好医師は、産婦人科、新生児の管理、病院全体の手術の6～7割を執刀、総合外来、スタッフ、学生の指導等に携わりました。

現在、三好医師は、ザンビアを離れています。多くの問題点を抱えるアフリカの医療の中でも母子保健の向上に今後も寄与したいと考え、アフリカの医療を学びたい学生や医療従事者にその機会を引き続き提供していきたい、と述べました。

(2) 医療技術移転活動

NPO法人TICOは、日本のODA事業を活用しつつ、ザンビアの首都での救急隊設立や農村部のプライマリーヘルスケアプロジェクトを10年以上支援しています。

更に、ザンビア大学付属教育病院からの要望に応じ、徳島赤十字病院の医師、看護師等の協力のもと、ザンビア人医師による心臓外科手術の実施に向けた技術指導を行っています。2017年には、人工心臓を使用せずに動脈管開存の子供の手術を、ザンビア人医師に指導し、3例の手術を成功させました。

2018年3月には、TICOの代表理事である吉田修医師に対して、公益財団法人大山健康財団より第44回大山健康財団賞が贈呈された。ザンビアに対する長年の地域保健医療活動はザンビアが目指すSDGs達成に大きく裨益しています。

また、上記の三好医師もTICOの支援を受けてザンビアで活動することになりました。

(関連情報) JICAHP

<https://www.jica.go.jp/zambia/office/information/event/20180307.html>